

校舎にある生徒の「力」の紹介（第2回）

～古（いにしえ）から学ぶ～

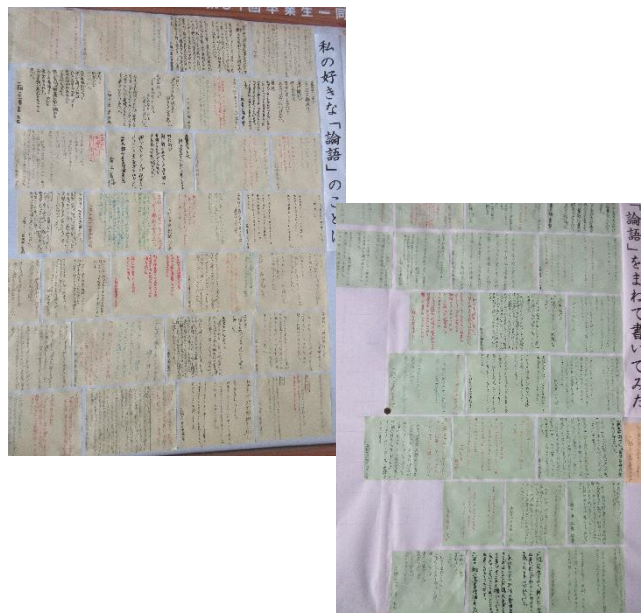
私たちの生活は、現在、過去、未来という3つに分けられます。過去があって今があり、今があるから未来があります。未来に向かって、よりよい社会を創造するのが私たちの務めです。そのために私たちは、学びを大切にしなければなりません。科学の進歩は目覚ましく、今や、宇宙への旅行ツアーもある時代です。私が子ども頃、テレビの中に描かれた夢の世界は現実となっています。コードがない電話は、携帯電話やスマートフォンになり、通信機器のついた腕時計は、スマートウォッチになり、自動車の自動操縦も現実になりました。ホテルのフロントもロボットが対応しています。長崎までの新幹線も現実になりました。バーチャルの学校もできつつあります。

輝かしい未来が待っていると思われる反面、人口の減少にともなって、働く人も減り、工場で生産する労働力不足や、輸送面においては、運転手の不足という問題も起こっています。もはや、高齢化社会ではなく、高齢社会であり、介護する人の年齢も高くなり、社会全体で様々な不安があるのも現実です。私たちの未来は予測することが不可能だと言われますが、本当にそうだなと思います。

さて、私は、社会科の教員なのですが、社会科には、歴史的分野があり、過去の人間の生活から未来を築く上で大切なことを学びます。過去の人間から学び、過去の人間が創造したものが私たちの生活につながっていることは多々あります。今回は、国語科で取り扱う、2つの題材について触れていきたいと思います。

その一つ目は、今から3000年ほど前になる中国の思想家の「孔子（こうし）」に関係することです。孔子という人物は、中国の春秋戦国時代に

活躍した思想家で、その人の教えを「儒教（じゅきょう）」と呼びます。その孔子の教えを弟子がまとめたものを「論語（ろんご）」といいます。その論語を3年生の国語科の時間に学びます。論語の中には、現在の私たちの生活の中でも大切にしている様々な心・道徳心について述べてあります。中国3000年の歴史と言いますが、3000年続く「教え」というのは、やはりすごいと思います。例えば、思いやりの心を大切にしようとか、目上の人に対しては、礼儀正しくとか、親孝行しようとか、学ぶこと（学習すること）は大切だとか、論語の中には、私たちが生きていくうえで大切な「心」がたくさん述べてあるので、3年生の国語科の学習で取り上げた「論語」の学習成果が西側階段に掲示されています。「子曰く（しいわく）・・・」という言葉から始まる論語について、その内容を自分の言葉で具体的に説明した作品や、論語をまねして、生きる道について述べた作品が掲示されていますので、その一部を紹介します。



己の欲せざることを、人に施すことなかれ。
 自分が人にされたら、嫌なことは、人にしてはいけない。
 当たり前だけれどもこういう事を、する人がいる。そういう人がいるから、問題になり、人間関係が悪くなる。だからこの考えは必要不可欠だと思う。

子曰く「力の足りない者は、途中で挫折して中止するのは止むおんない。しかしそれを実行せぬに見切りをつけることはいけはないのだ。」
 (今、あなたは自分で自分の限界を決めて諦めている。)

この言葉を聞いた時「自分で自分の限界を決めて諦めて」と書いてあった。自分は無意識のうち自分の限界を決めて諦めていたんだと気付かされた。これからはたまたまの事に挑戦して、いかにいけないので、諦めたかと思いつた。

子曰はく「先ず行つ。その言や、しかるのちに、これに従ふ」と。
 先生は言われた。
 「まずは行動をしなければ。言葉はあとからついてくるのだから」と。
 私自身いつも「今から勉強する」「や、今から片付ける」と口では言うけど、それにもなや行動ができていない。明日から、いやと後回しにしてしまっていることが多々ありました。そんな弱い自分、うち勝つたと思いたので、この言葉を選びました。

子曰はく、「過ちを改めざる、是れを過ちと謂う」と。
 先生がおっしゃるには、
 「過ちを犯していながら改めないのが、本当の過ちである。過失はやむを得ないが、過ちと気づいたらすぐ改めよ」と。
 何か間違つたことをしてしまつたとき、そのことをごまかさず、正直に言えないことは間違つてしまつたことよりも間違つたのだという意味にとっても共感した。過ちを犯さず生きていけるのは良いことだが、人間なので全く過ちを犯さないというのは難しいと思う。そんなときこの論語を思い出して、過ちを認めるようにしたい。

自らの言葉で、孔子の教えを表現し、そのことについての自分の考えが記されています。主体的に調べ、自分のこととして主体的に考え、そして、自分の言葉で主体的に表現するという、学習指導要領が示す学習だな・・・思って、ついつい立ち止まって見てしまいます。皆さんも、立ち止まって見てみましょう。周囲の学びを共有することで、自分の学びにつながります。協働的な学習です。

母曰はく「失敗から得られる物は成功より多い。だからこそ挑戦し、失敗しよう」と。
 これは自分か小学生の頃、習い事で失敗したくないと母に言ったときに、もう言った言葉です。失敗することはよくないことだと思つて、自分はこの言葉をもらい、今では失敗は宝探しではないかと思ひ過つています。この言葉は自分の人生を大きく亦支えてくれた言葉です。

親曰はく、「人生悔いのないようになさい」と。
 これは中学三年生になつてから卒業してからの進路を考えた時に、親に言われた言葉です。この言葉を聞いて、この道に迷ひは本人が決めることだけれど、悔いのないようになつてほしいなと、これからは色んなことでも決意する場面が沢山あると思うけれど、悔いのないようになつてほしいなと、慎重に物事について考えていきたいです。

「1」紹介するものは一部です。たくさん学習成果が掲載されていますので、保護者の皆様も来校時にぜひ「1」ご覧ください。
 職員室「1」声かけつたとき、「1」覽いただけね、幸いです。

高橋先生曰はく、「悪いことの矢印を、周りに向けてはいけない」と。
 これは去年退職された高橋先生が、日頃からおっしゃっていた言葉です。なにが悪いことかあったり、上手くいかなかったりしても、相手を責めるのではなく、自分を疑つてみるのが大事だと教えてくれました。今でも心がけている言葉です。

先輩曰はく、「中途半端で終わらない。最後までやり遂げる」と。
 これは、部活のお別れ会で先輩が「最後の一言」を求められて言つた言葉です。私も、中途半端で終わつてしまつたか、何度かあり、部活内でも上手くいかなくて、たけれど、最後までやり遂げることは達成感を得られます。諦めず、がんばりたいです。